

令和7年度 全国及び岡山県学力・学習状況調査結果について

令和7年度 久米中学校の結果をお知らせします。

	1年生			2年生			3年生	
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学
全国	64.5	66.8	81.4	65	53.6	51.3	54.3	48.3
岡山県	64.3	67.1	80.5	63.7	53.7	49.9	55	48
津山市	63.1	65.2	79.5	62.2	51.5	47.3	51	43
久米	69.7	75.5	81.9	56.7	45.9	43.7	46	37
全国比較	5.3	8.7	0.5	-8.3	-7.7	-7.6	-8.3	-11.3
昨年度				(-2.1)	(-0.7)	(-1.8)	(-2.7)	(-5.3)

	1年生	2年生	3年生
自分には良いところがある	84.5	66.7(93)	64.7(71)
将来の夢や目標を持っている	88.9	91.6(91)	76.4(79)
平日の家庭学習(1時間以上)	44.4	48(73)	52.9(65)

()の数値は、2年生が1年生、3年生が2年生時の数値です。

全国及び岡山県学力・学習状況調査結果と今後の取組について

4月17日(木)に行われた令和7年度の全国・及び岡山県学力学習状況調査結果の分析と今後の取組についてお知らせします。お子様にはすでに、1学期末に個人票をお渡ししています。

本年度の全国・県学力・学習状況調査の結果は、中学2・3年生の国語・数学・英語において全国の平均正答率を全ての実施教科で下回るという大変厳しい結果となりました。一方、中学1年生は3教科とも全国平均を上回り、成果が示されています。この強みを維持・発展させることも本校の重要な課題です。

Ⅰ 調査の目的について

全国調査は、

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

岡山県調査は、

- ・児童生徒の学力及び学習の状況を把握・分析して指導の成果と課題を検証・改善するとともに、調査結果に基づき個々の児童生徒が自らの学習等の改善に資することを目的とする。

となっています。

学力状況調査結果からは、

国語は、「読むこと」「書くこと」を中心に課題は解消されていません。引き続き文章の内容を解釈する根拠を明確にして、自分の考えを書く等の充実が求められています。3年生の書くことの質問等で無解答

率が著しく高いものも見られました。粘り強く取り組む姿勢をむととともに、問題文の意図を理解する力の育成も併せて行う必要があります。

数学は、2年生では「1次方程式」「平面図形」の内容の課題が大きく、計算や作図など、式や図形の基本的操作についての課題が見られました。また、多くの設問で無解答率が高かったです。3年生では、特に「図形」「データの活用」の領域で課題が大きいです。すべての学年で、数量や図形について、基礎的な概念や原理・法則の理解・定着に共通の課題があると考えられます。答えを求めるだけではなく、数学的な知識や概念を自分自身の言葉で表現したり、日常の事象などから問題を捉え、解決の過程について、数学的な見方、考え方を働かせて説明したりする学習活動の充実が求められます。

英語は、授業ではそれぞれの領域の狙いに沿って、語彙や表現を豊かにする文構造及び文法などを、目的や場面に応じて活用し、聞いたことを書く等、領域をつなげる学習活動を増やすことが引き続き求められます。

理科は、疑問や問題を解決するための課題を設定する設問、探求の過程を振り返る設問において、平均正答率が低かったです。無回答率も高かったです。授業において、生徒自身が予想や仮説に基づいて観察・実験を計画したり、観察・実験の結果の分析・解釈だけにとどまらず、観察・実験の方法の妥当性を検証したり、新たな疑問を見出したりする取組が求められます。

学習状況調査の結果からは、

「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒の割合が県平均よりも低かったです。生徒が学ぶことと、自分の将来とのつながりを意識しながら、日々の教育活動を行い、それぞれの場面で、その振り返りを重視した指導を行うなど学校の状況に応じたキャリア教育の充実が求められます。

「自分には良いところがある」と肯定的に回答した割合は、県平均を下回っています。つやま郷土学を教育課程に位置づけた取組などで、生徒が活躍する場を設定し、生徒の頑張りや活動の成果を承認する取組等引き続き、学校全体で意識的な取組を推進する必要があります。

「家庭学習時間1時間以上している割合」は、すべての学年で全国県平均を下回りました。また「家庭学習を全くしない」生徒の割合は、全ての学年で県平均を上回りました。今後は家庭学習の習慣の定着のため、生徒が自己課題を把握し、課題解決に向けて主体的に取り組めるような個の課題に応じて、選べる内容や方法の工夫等を行う必要があります。

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができたか」の質問では、県平均を下回りました。今後も授業づくりの重要な視点であり、授業改善において意識した取組が必要です。

今後の主な取組については、

- ・「学びのサイクル」の検証や見直しを行い、生徒が自己の課題を解決できる授業づくり、環境設定を行います。
- ・生徒が課題を適切に読み取り、思考・判断し、考えを伝え合える「思考力、判断力、表現力等」の育成を行います。
- ・全国・県学力・学習状況調査の結果を踏まえ、中学校ブロックごとに小中で連携した学力向上の取組を進めます。
- ・家庭学習に主体的に取り組めるよう、個に応じた家庭学習の内容と方法を工夫します。
- ・スマートフォン等の適切な関わりについての学習を行います。またPTAや学校運営協議会へ情報提供し、家庭や地域も連携して、定期的な家庭でのルールの見直しや啓発活動を行います。